

4 標準学力調査と学習意識調査の関連性の分析

標準学力調査と学習意識調査の関連を見るため、標準学力調査において目標値を上回る児童・生徒を評定3（正答率が目標値に対し、+5ポイント以上）、目標値と同程度の児童・生徒を評定2（正答率が目標値に対し、+5ポイント未満～-5ポイント以上）、目標値を下回る児童・生徒を評定1（正答率が目標値に対し、-5ポイント未満）に分類した。この学力層を用いて、学習意識調査の項目を比較し、その傾向を分析した。

(1) 標準学力調査と読書量、学習時間との関係

表11 標準学力調査と読書冊数

標準学力調査		平均読書冊数(冊)		
		評定3	評定2	評定1
小学校	第1学年	5.3	5.3	5.4
	第2学年	4.9	4.4	4.4
	第3学年	6.3	6.1	5.4
	第4学年	5.5	5.4	4.5
	第5学年	8.0	6.9	6.1
	第6学年	6.9	4.8	5.3
中学校	第1学年	3.7	3.7	3.7
	第2学年	3.9	3.1	4.8
	第3学年	3.8	3.4	3.7

※小1～小4は「1週間あたり」の冊数

※小5～中3は「1か月あたり」の冊数

○多くの学年で、学習到達度が高い子どもは、やや読書量が多い。

- ・小学校第2学年、第3学年、第4学年、第5学年では、学習到達度の高い子どもの方が、本を多く読んでいる傾向がある。

表12 標準学力調査と学習時間

<平日>

		まったくしない割合(%)		
標準学力調査		評定3	評定2	評定1
小学校	第1学年	—	—	—
	第2学年	—	—	—
	第3学年	7.9	15.4	24.1
	第4学年	6.0	10.1	16.5
	第5学年	4.5	7.3	17.8
	第6学年	1.6	7.6	18.6
中学校	第1学年	7.8	12.6	18.1
	第2学年	13.6	15.2	23.2
	第3学年	2.6	4.2	12.5

		1時間未満の割合(%)		
標準学力調査		評定3	評定2	評定1
小学校	第1学年	—	—	—
	第2学年	—	—	—
	第3学年	38.2	43.3	38.5
	第4学年	30.2	41.8	49.3
	第5学年	17.5	24.3	30.9
	第6学年	11.8	24.2	26.2
中学校	第1学年	21.9	16.2	25.2
	第2学年	14.1	16.3	20.6
	第3学年	4.9	4.2	10.3

		1時間以上の割合(%)		
標準学力調査		評定3	評定2	評定1
小学校	第1学年	—	—	—
	第2学年	—	—	—
	第3学年	53.9	41.3	37.4
	第4学年	63.7	48.1	34.2
	第5学年	76.8	66.0	48.2
	第6学年	85.6	67.4	53.8
中学校	第1学年	70.1	71.2	55.6
	第2学年	71.5	66.9	55.5
	第3学年	92.5	91.1	76.5

<休日>

		まったくしない割合(%)		
標準学力調査		評定3	評定2	評定1
小学校	第1学年	—	—	—
	第2学年	—	—	—
	第3学年	16.7	26.0	37.0
	第4学年	13.3	19.0	32.4
	第5学年	13.6	21.6	33.2
	第6学年	7.4	19.9	35.5
中学校	第1学年	16.0	19.9	36.4
	第2学年	24.9	33.7	42.9
	第3学年	6.2	12.7	18.3

		1時間未満の割合(%)		
標準学力調査		評定3	評定2	評定1
小学校	第1学年	—	—	—
	第2学年	—	—	—
	第3学年	45.8	48.6	43.6
	第4学年	36.8	48.5	44.8
	第5学年	23.9	32.0	31.4
	第6学年	14.4	33.1	33.5
中学校	第1学年	20.9	19.4	27.9
	第2学年	20.1	19.1	21.0
	第3学年	4.1	6.1	15.0

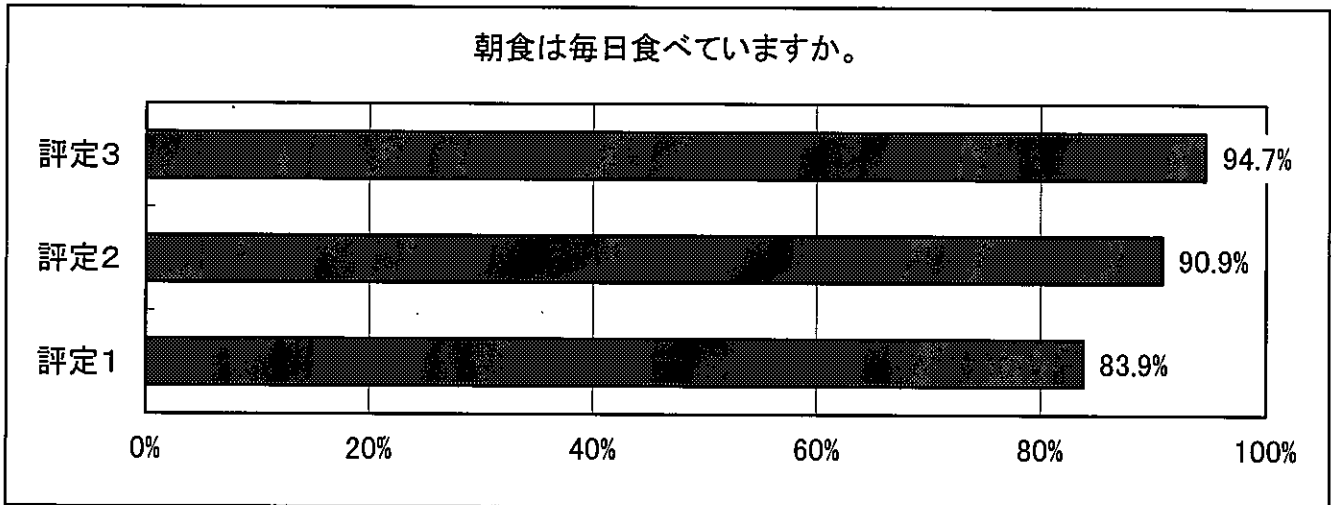
		1時間以上の割合(%)		
標準学力調査		評定3	評定2	評定1
小学校	第1学年	—	—	—
	第2学年	—	—	—
	第3学年	37.4	25.0	19.5
	第4学年	49.7	32.5	22.7
	第5学年	60.3	44.0	33.5
	第6学年	77.2	45.3	29.9
中学校	第1学年	63.1	59.7	35.1
	第2学年	54.0	46.6	35.4
	第3学年	89.1	80.8	66.0

- ・平日の学習時間を見ると、まったくしない割合、1時間未満の割合は、多くの学年で評定1が高くなっている。ここから、学力の定着が不十分な児童・生徒は学習時間が短いことが分かる。
- ・一方、1時間以上の割合は、多くの学年で評定3が高くなっている。特に、小学校第6学年では、評定3と評定1の割合の差が31.8ポイントと最も大きい。
- ・休日の学習時間を見ると、まったくしない割合は、全ての学年で評定1が高くなっている。ここから、学力の定着が不十分な児童・生徒は学習時間が短いことが分かる。
- ・一方、1時間以上の割合は、全ての学年で評定3が高くなっている。特に、小学校第6学年では、評定3と評定1の割合の差が47.3ポイントと最も大きい。

(2) 標準学力調査と家庭での生活習慣との関係

○学習到達度が高い子どもの方が、朝食は毎日食べている割合が高い。

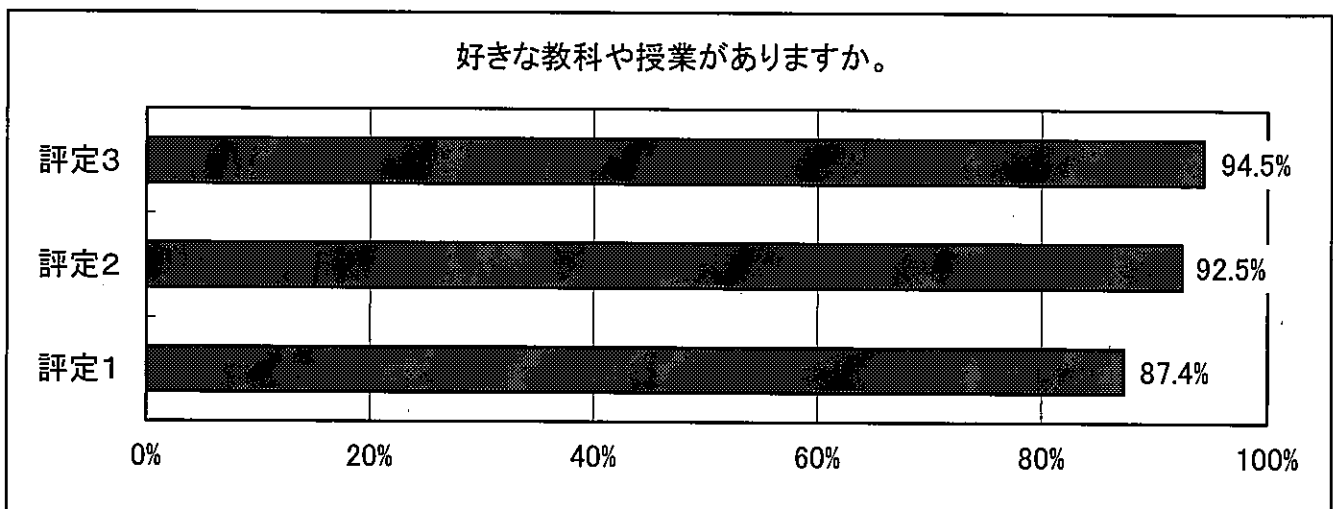
- ・朝食は毎日食べていると回答した割合は、到達度の高い子どもで 94.7%、低い子どもで 83.9%となっており、10.8ポイントの差となっている。
- ・日々の生活習慣と学力は関連が深く、家庭での生活に関する適切な環境作りなど、家族のささえは、子どもの学力向上のための重要な視点と考えられる。



(3) 標準学力調査と「好きな教科や授業があること」との関係

○学習到達度が高い子どもの方が、好きな教科や授業がある割合が高い。

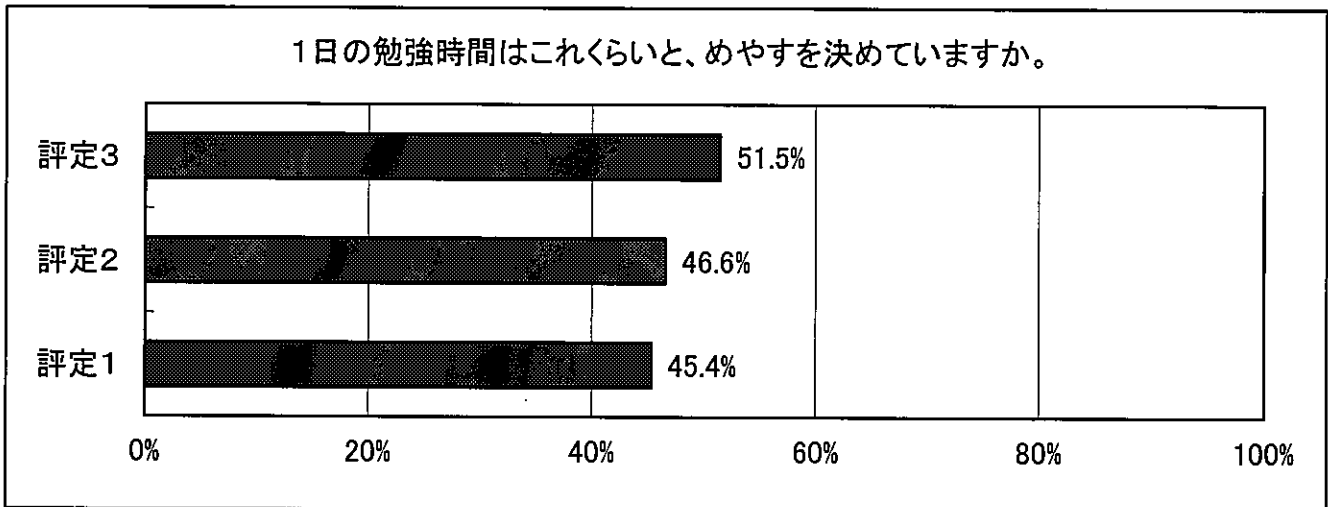
- ・好きな教科や授業があると回答した割合は、到達度の高い子どもで 94.5%、低い子どもで 87.4%となっており、7.1ポイントの差となっている。
- ・好きな教科や授業があると実感することと学力は関連が深く、日々の学習や授業に肯定的な意識を有するように指導することは、子どもの学力向上のための重要な視点と考えられる。



(4) 標準学力調査と「1日の勉強時間はこれくらいと、めやすを決めること」との関係

○学習到達度が高い子どもの方が、1日の勉強時間のめやすを決めている割合が高い。

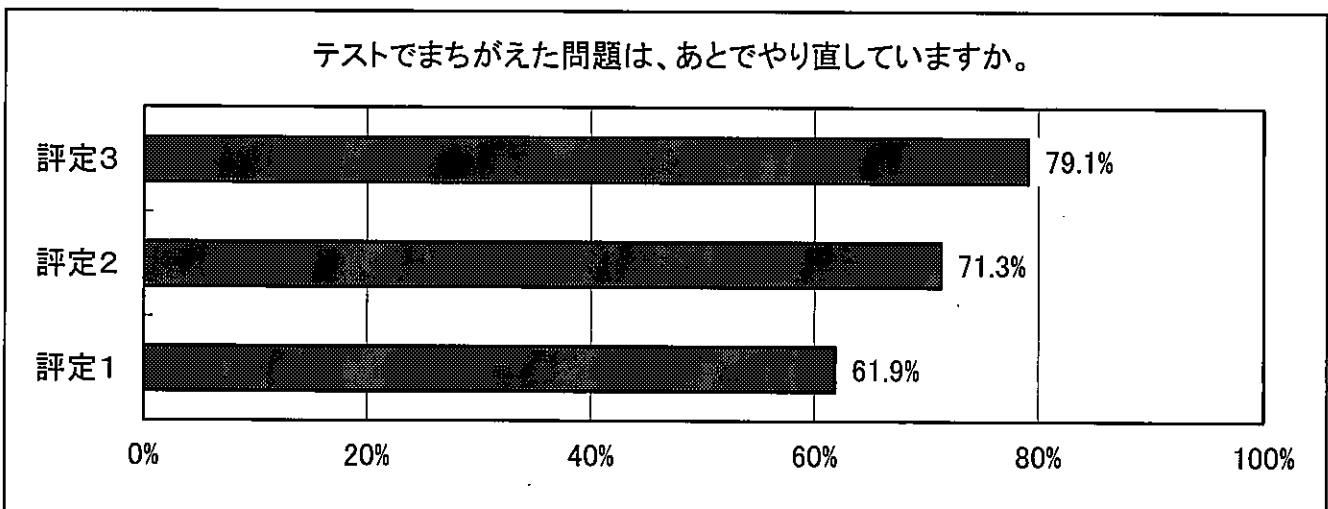
- ・1日の勉強時間のめやすを決めていると回答した割合は、到達度の高い子どもで51.5%、低い子どもで45.4%となっており、6.1ポイントの差となっている。
- ・自分で勉強時間を決めるなど、主体的に取り組む姿勢と学力は関連が深く、普段からの学習習慣の確立は、子どもの学力向上のための重要な視点と考えられる。



(5) 標準学力調査と「テストでまちがえた問題は、あとでやり直すこと」との関係

○学習到達度が高い子どもの方が、テストでまちがえた問題は、あとでやり直す割合が高い。

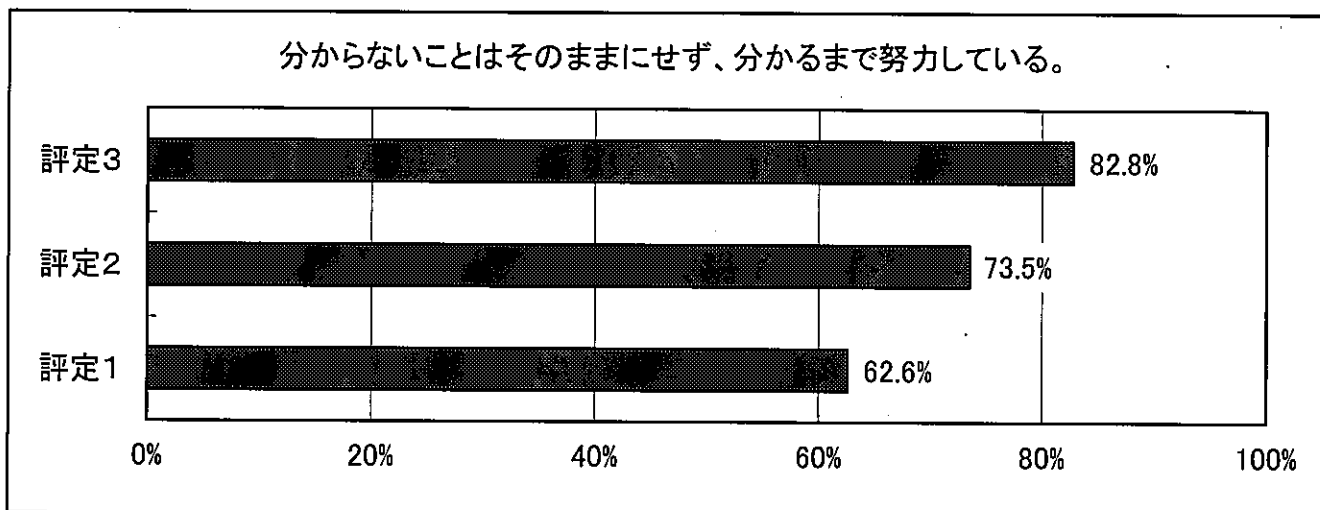
- ・テストでまちがえた問題は、あとでやり直すと回答した割合は、到達度の高い子どもで79.1%、低い子どもで61.9%となっており、17.2ポイントの差となっている。
- ・返された答案を見直し、まちがえた問題に再度取り組む姿勢と学力は関連が深く、次に同じまちがいを繰り返さないようにする学習は、子どもの学力向上のための重要な視点と考えられる。



(6) 標準学力調査と「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力すること」との関係

○学習到達度が高い子どもの方が、分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している割合が高い。

- ・分からないことはそのままにせず、分かるまで努力していると回答した割合は、到達度の高い子どもで82.8%、低い子どもで62.6%となっており、20.2ポイントの差となっている。
- ・授業内容や勉強で分からないことがあれば、そのままにせずに進んで解決することと学力は関連が深く、分からないことがあってもあきらめずに学習に取り組む姿勢は、子どもの学力向上のための重要な視点と考えられる。



(7) 標準学力調査と「正しい姿勢で学習すること」との関係

○学習到達度が高い子どもの方が、正しい姿勢で学習している割合が高い。

- ・正しい姿勢で学習していると回答した割合は、到達度の高い子どもで71.3%、低い子どもで59.4%となっており、11.9ポイントの差となっている。
- ・正しい姿勢で学習するなど、きちんと学習に取り組むことと学力は関連が深く、普段から学習に集中するような習慣付けをすることは、子どもの学力向上のための重要な視点と考えられる。

